

福祉保健生活環境委員会 県外所管事務調査の概要

◆調査日程 令和元年9月11日（水）～9月13日（金）

◆調査先・調査内容

①医療法人徳洲会 ホームケアクリニック札幌（北海道札幌市）

調査内容：在宅緩和ケア（在宅ホスピス）、看取りについて

ホームケアクリニック札幌は、主にかん終末期の患者本人とその家族が、苦痛や不安なく安楽に在宅療養ができるようサポートするため、平成20年7月、24時間365日体制の在宅緩和ケア（在宅ホスピス）を専門とする診療所として設立された。

当施設では、日々の在宅緩和ケアや看取りの現場の最前線で活躍されているホスピス医、訪問看護師及びソーシャルワーカーから、在宅緩和ケアの現状や訪問看護師の役割・活動状況、今後の在宅緩和ケアの課題や行政に求める支援について説明いただき、意見交換を行った。

<主な質疑等>

- ・在宅看護分野における看護師等の人材確保対策について
- ・独居高齢者等の在宅緩和ケアについて
- ・行政に求める支援について



②社会福祉法人浦河べてるの家（北海道浦河町）

調査内容：精神障がい者の自立・地域定着支援について

社会福祉法人浦河べてるの家は、1984年に過疎化の進む北海道浦河町で、精神障がいを抱えた方々が、町のために何かできることはないかと考えたことを契機に設立された精神障がい当事者による地域活動拠点である。

べてるの家では、三度の飯よりミーティングの理念の下、精神障がい当事者同士で自らの症状を語り、仲間の悩みを聴き、語り合うミーティングを月に100回以上行っている。中でも自身の症状を研究する当事者研究と、当事者研究で把握した病気の特徴やその背景を可視化し、ロールプレイング形式により日常における人とのコミュニケーション練習を行うSST（Social Skills Training生活技能訓練）の取組が有名で、年間を通じて日本だけでなく世界からも視察者が訪れている。

今回は、当事者研究とSSTの輪に加わり、精神障がい当事者の皆さんと意見を交わしながらの参加型研修により実際の様子を体感した。

<主な質疑等>

- ・法人の運営状況について
- ・法人と行政の関わりについて



③北海少年院／紫明女子学院（北海道千歳市）

調査内容：再犯防止の取組について

北海少年院は、昭和17年に開設された全国で6番目の少年院であり、第1種少年院の指定を受け、生活指導や職業指導、ボランティアなどの特別活動指導等による矯正教育に取り組まれている。当院には、全国でも数少ない介護福祉や土木・建築分野の職業能力開発指導があり、介護職員初任者研修修了証や大型特殊自動車運転免許証の取得が可能となっている。

紫明女子学院は、昭和19年に開設され、北海少年院に併設した女子少年院である。男子少年院在院者の入院理由の多くが窃盗や傷害が半数以上を占めるのに対し、女子少年院では、ぐ犯（性格、環境に照らして将来罪を犯し又は刑罰法令に触れる行為をするおそれのある少年）や覚醒剤が半数近くを占めるのが特徴である。

今回、両施設を訪問し、施設概要や出所後の地域定着に向けた取組などを伺うとともに、施設内見学を行った。

<主な質疑等>

- ・入院者、再犯者の傾向について
- ・退院後の地域定着支援、地域との連携について

